災害急性期の避難所での看護職の役割に関する文献検討

旭川医科大学医学部看護学科 佐々木優衣 佐﨑美矩

研究の背景(1)

- 2011年東日本大震災
- 2016年熊本地震
- 2018年西日本豪雨など 大規模災害が幾度も発生



■ 避難所・・・住まいを失い、地域での生活を失った被害者の拠り所となり、在宅で不自由な暮らしを送る被災者の支援拠点3)

研究の背景②

- 避難所の役割:緊急物資の集積、情報の発信と収集、 在宅避難者が必要な物資の受け取り場所²⁾
- 大規模災害の避難者数(大震災を除く)

災害発生の翌日頃:ピーク

3日目辺り~:減少

7日目位:自宅へ早期に戻れるのか、自宅等の修繕や 仮設住宅等の住まいが確保されるまでの滞 在か概ね把握可能⁴⁾

研究目的

- 特に災害発生から7日目までの**急性期**に避難所の役割 は大きい
- 被災者の生活の場である避難所では、看護職は重要な 役割を担っている



目的:災害急性期の避難所において看護職が果たしている役割を明らかにする

用語の定義

- 災害急性期:災害発生からおよそ1週間までの時期5)を指す
- 災害支援ナース:看護職能団体の一員として被災した看護職の心身の負担を軽減し支えるとともに被災者が健康レベルを維持出来るように被災地で適切な医療・看護を提供する役割を担う看護職のこと⁶⁾。
- 本研究では看護職を災害支援ナースを指すものとする。

対象

- 文献データベースは、医学中央雑誌Web版(以下、 医中誌Web)を用いた。
- ■キーワード
 - ・「災害」「避難所」「看護」 (看護学生を対象とした文献除外) ⇒66件
- ・「災害」「看護活動」⇒36件
- 原著論文を中心に選定、研究目的に合致しないもの を除外⇒7件の文献を対象

分析方法

- グレッグら⁹⁾の質的研究の方法を参考に分析
- 避難所における災害急性期の看護実践を示す内容を抽出し、コード化

各コードの類似性によりサブカテゴリ化、カテゴリ化

倫理的配慮

■ 文献資料は公開済みのものとし、出典を明記した上で、 著作権法を遵守し使用した。

結果 7つの対象文献の概要 末永ら 2012 複雑化する災害における看護の役割 - 東日本大 東日本大震災において、急性期医療活 震災における急性期医療活動の経験を通して- 動を行った看護職6名 災害看護実践行動の検討-災害医療経験を持つ 阪神・淡路大震災、新潟中越地震、 医師の語りから-潟中越沖地震などの被災地で災害看護 の実践にかかわった医師8名 山中ら 2018 災害時の一般避難所生活における災害時要支援 東日本大震災で避難所で対応に当たっ 者への支援―高齢者、乳幼児・妊婦を中心に― た経験のある職員32名 4 安齋ら 2018 東日本より津波被害を受けた高齢者の避難所で 東日本大震災で津波被害を受けた地域 の体験 震災直後から災害急性期に焦点を当てて で避難生活を経験した高齢者9名 5 作川ら 2018 避難所において看護職が担うコーディネートに 熊本地震発災1ヵ月以内の避難所にお いてコーディネートした看護師6名 災害看護実践行動をもとにした災害看護教育プ 阪神・淡路大震災以降に被災地で災害 ログラム開発のための基礎的研究~災害看護実 看護実践を行った看護者40名 践経験を持つ看護者の語りの分析 神城断層地震こころのケアチームの報告 神城断層地震の精神科医療チーム(医 師3名,看護師3名,臨床心理士1名, 精神科社会福祉士1名、事務1名)

7つの対象文献から、175コード、35サブカテゴリ、9カテゴリを抽出



結果と考察1災害急性期の活動体制整備と避難所運営

カテゴリ	サブカテゴリ
災害支援 活動を行 うための 体制整備	被災者や被災地の情報収集(8) 現場の状況に合わせてケアを行うための物資調達(5) 現場の状況と問題点を判断し情報伝達する(12) マンパワーを分配し支え合う協力体制の構築(11) チームで継続したケアを行うためのシステム化(8)
被災地の 力を活か した避難 所運営	被災者の思いに沿った避難所の運営 (2) 被災者同士のトラブルの調整(2) 被災者の安全確保(5) 被災地のキーパーソンとの協働(5)

被災地の状況に合わせた情報収集やマンパワーの確保と適切な配置を行う必要性

職域を超えてチーム医療での指揮・ 命令系統や安全性を確保した体制づ くり、資器材・インフラの確保・維 持、組織やチーム単位の連携などの 役割が広範に抽出されたという報告 と一致。

> 避難所での看護活動には 調整能力が求められる

結果と考察2-1 避難所におけるケア

カテゴリ	サブカテゴリ
被災者の二ー	特別な配慮が必要な被災者に合わせたケア(8)
ズに合わせた	被災者の生活に視点を持ったケア(2)
ケア	医療ニーズを見極める(6)
避難所におけ	介護の必要な高齢者が動きやすい環境を整える(13)
る日常生活の	妊婦や乳幼児のために専用スペースを用意する(4)
環境整備	家族・親戚・近所の人でグループを作る(6)
避難所における健康管理	被災者の健康管理のための状況把握(4) 慢性疾患を持つ人のセルフケア力を高める援助(5) 行動範囲の縮小による運動不足の解消(2) 被災者の楽しみとなるイベントを計画する(1) 被災者の清潔保持のための援助(2) プライバシーに配慮した排泄環境の整備(3) 不衛生になりやすい生活の中での感染症蔓延予防(5)

結果と考察2-2 避難所におけるケア

	カテゴリ	サブカテゴリ	
	避難所の中で診療		
	の補助	必要な人が診療を受けられるスクリーニング(6)	
		診療前のバイタルサインの測定(1)	
		受診につなげる(4)	
-		傷病者の搬送に伴う援助(6)	
	被災者に対する心	被災者の気持ちの理解(5)	
	理面への支援	被災者の心の負担を軽減(2)	
		被災者と良好な関係を築く(6)	
	/ 看護職への間待入		

く有護城への期待>

- ・避難所の健康課題やニーズの把握
- ・健康管理や日常生活援助、環境整備、診療の補助、こころのケア

柔軟かつ幅広い対応が期待される

結果と考察3被災地における看護管理のあり方

カテゴリ	サブカテゴリ
被災地でケアを	チーム内の情報を共有する為の調整(9)
円滑に行うため	業務を円滑にする為のマネジメント(4)
の看護管理	支援者に対する心のケア(4)
	支援者へのハラスメントの防止(1)
職業倫理に基づ	看護職として使命感を持ち被災者の健康と生活
く支援	を守る(5)

新福ら(2015): 支援者らは物資面の準備は行っていたが心の準備が不十分で、 支援者の休息は後回しにし、被災者の経験を聞くことによる 代理受傷、燃え尽きに至る

本研究において、**支援者を支える看護管理** の抽出は意義が大きい

結論

- 災害急性期における看護職の役割
 - ○診療の補助や日常生活援助、環境整備等に加え、 協力体制作りや支援者へのケア
- ○被災地の支援関係者及び被災者との関係の構築、 連携調整、チームで継続的な支援につなげる調整役
- 今後の課題
- ○災害時の看護管理のあり方

引用文献

1)内閣府:令和元年版 防災白書, www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h18/bousai2006/html/honmon/hm01010101.htm, (閲覧日 2020.4.26)

2)内閣府(防災担当):避難所における良好な生活環境の確保に向けた取組指針, http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/pdf/1605kankyokakuho.pdf,(閲覧日 2020.4.22).

nttp://www.bousai.go.jp/taisaku/ninanjo/pdi/1605kankyokakuno.pdi, (閲員日 2020.4.22) .

3)内閣府(防災担当):避難所運営ガイドライン,http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/pdf/1604hinanjo_guideline.pdf

4) 内閣府(防災担当):避難所の役割についての調査検討報告書

5)安齋由貴子, 桂晶子, 坂東志乃, 他(2018): 東日本大震災により津波被害を受けた高齢者の避難所での体験 ―震災直後から災害急性期に焦点をあてて―, 日本公衆衛生看護学会誌,7(3),134-142.

6)日本看護協会:看護実践情報 災害看護, https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/saigai/index.html, (閲覧日2020.4.22).

7)日本看護協会:災害支援ナースの派遣活動, https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/reconstruction/support/report/pdf/hokoku-1.pdf, (閲覧日 2020.4.22) 8) 西川愛海(2018):東日本大震災以降の災害時期別における看護活動, PhenomenainNursing, 2(1), 1-15.

9) 長沼幸司,福田友秀,武島玲子(2017):災害急性期の看護の役割を焦点とした災害看護教育の方向性に関する文献検討日本集団災害医学会誌,22(1),1-8.

10) 新福洋子,原田奈穂子(2015):東日本大震災における災害医療支援者の心理状況,聖路加看護学会誌,18(2),12-22.

